

平成30年度第2回 岐阜県青少年育成審議会 議事録

日 時	平成31年2月1日（金） 10:00～12:00
場 所	岐阜県庁 議会東棟 2階 第2面会室
出席者	<委員> 17名（欠席委員3名） 兒玉委員、錦見委員、玉腰委員、田村委員、森下委員、酒井委員、大池委員、 岡田委員、岩田委員、三輪委員、深谷委員、加藤委員、寺田委員、柏田委員、 磯谷委員、杉山委員、多田委員 <県> 11名 北川環境生活部次長、河田私学振興・青少年課長、中村県警少年課長、 宮部学校安全課課長補佐 他

会議の概要

- 1 開会
- 2 環境生活部次長あいさつ
- 3 条例の規定に基づく報告事項
 - (1) 有害興行の緊急指定について
 - (2) 有害図書類の指定について
- 4 その他報告事項
 - (1) 青少年健全育成施策について
 - (2) 岐阜県青少年育成支援協議会について
- 5 意見交換
- 6 閉会

議事の概要		
進行次第	発言者	発言
意見・質疑等		<p><議事録署名者の指名> 会長から、本日の議事録署名者に、玉腰委員、森下委員を指名した。</p> <p><新委員の紹介、部会の所属> 部会委員の指名については、前任委員の所属部会を引き継ぐ形で、条例施行規則により、寺田委員は第1部会に所属することとなった。</p> <p><有害興行の緊急指定について（報告）> 有害興行の緊急指定について、事務局から資料に基づき報告した。</p> <p><有害図書類の指定について（報告）> 有害図書類の指定について、事務局から資料に基づき報告した。</p> <p><岐阜県青少年健全育成計画について、岐阜県青少年育成支援協議会（以下「協議会」）について> 第3次岐阜県青少年健全育成計画の進捗状況及び主な施策について、資料に基づき事務局から説明した。</p>
	加藤委員	<p><質疑> ぎふ立志リーダー養成塾、日本の次世代リーダー養成塾はどのような生徒を対象にしているのか。地域子ども支援賞ではどのような方々が受賞しているのか。</p>
	事務局	<p>ぎふ立志リーダー養成塾では、中学生を対象に白川郷で宿泊型のサマースクールを実施している。参加者は各中学校で生徒会長などリーダーとして活動している、あるいは活動しようとしている生徒が応募している。ここでは、白川村の職員からの聞き取りや現地視察で白川村のまちづくりを学習したり、県内産業界のリーダーからの講話を聴いてリーダーに必要な資質を学んでいる。日本の次世代リーダー養成塾は、主催は全国組織で全国的に募集がかかる。岐阜県からの推薦枠があり、高校生を対象に各学校を通じて参加者を募集している。各界の著名人の話を聞いて国内、海外で活動する人材を養成している。地域子ども支援賞は地域で子どもたちの活動を支援している個人、団体を表彰し、その活動を広げたいとの思いで実施している。受賞者のネットワークをつくり、活動を続けるうえでの情報共有やこれから支援活動をやりたい人をこのネットワークが応援するなどして広げていきたい。</p>
	加藤委員	<p>ぎふ立志リーダー養成塾や日本の次世代リーダー塾は全ての中学校、高校に募集を案内しているのか。</p>
	事務局	<p>全ての学校である。応募人数が多い場合は選抜している。</p>
	加藤委員	<p>どのように選抜しているのか。</p>
	事務局	<p>ぎふ立志リーダー養成塾では、1校から大人数にならないよう、地域がばらけるように参加者を選んでいる。日本の次世代リーダー養成塾では、本部</p>

意見・質疑等		<p>から試験や面接を行うよう要請されており、第三者にお願いし選考している。</p>
	加藤委員	<p>厳しい選考を経て選抜されているのか。</p>
	事務局	<p>はい。</p>
	加藤委員	<p>先ほど説明された資料の中で、県が地域の団体などの活動を把握できていないとの指摘があったとのことだが、地域子ども支援賞について、候補者の活動をどのように把握し選考しているのか。</p>
	事務局	<p>市町村や学校長などから個人、団体を推薦してもらい、選考委員会で選考している。活動の内容や活動期間の長さなどで選考している。地域で子どもを支援する活動を広げたいとの目的で実施しているので推薦された方が選考漏れするのは少数である。</p>
	加藤委員	<p>地域で活動が認められている方を表彰するということか。</p>
	事務局	<p>はい。</p>
	加藤委員	<p>市町村では活動を把握しているということでしょうか。</p>
	事務局	<p>調べてみないと分からないが、表彰の枠にはまらない活動があるという指摘かもしれないし、例えば、困難な子どもを支えるという分野に目がいていないという指摘かもしれない。</p>
	加藤委員	<p>協議会は、困難を抱えた子どもを支える仕組み作りがメインターゲットということでしょうか。</p>
	事務局	<p>困難を抱えた子どもの支援であったり、支援がはいた後の継続的なフォローという面にも取り組むが、青少年の体験活動や交流といった健全育成の分野にも取り組む。</p>
	加藤委員	<p>協議会の資料を見ると、困難を抱えた子どもの支援に関する記述が多いが、両方に取り組むということか。</p>
	事務局	<p>困難を抱えた子どもの支援と生きる力を育む健全育成をはっきり分けられない、どちらも必要だと考えている。健全育成分野で活躍している青少年も困難を抱え支援を受けることもあり得るし、逆もあり得るという視点で取り組んでいる。</p>
	加藤委員	<p>青少年の分野は対象者など幅が広いため、目標を定めてターゲットを絞っていかないと、お金や労力が無駄になりかねないと思う。</p>
	田村会長	<p>協議会については、このようなしくみが今までに無く、いい取り組みだと思う。まずは、各団体の取り組みを理解してから協議会をどう進めていくかということだと思う。地域子ども支援賞についても、年長者は90歳代の方もいるし、長年、地道に活動している方が多く、そういう方々を掘り起こして表彰している印象だ。贈呈式に出席したことがあるが、表彰状をもらった皆</p>

意見・質疑等		<p>さんの晴れやかな表情が印象的で、とても大切な施策だと思う。他に質問、意見等がありますか。</p>	
	大池委員	<p>被害青少年支援センター費という事業があり相談件数が記載されているが、何の被害を受けているのか。青少年本人や成人本人という記載があるが、青少年や成人が被害を受けたということか。</p>	
	事務局	<p>被害青少年支援センター費は県の予算名だが、青少年SOSセンターでは、何かの被害だけではなく、悩みを聞いてほしいという相談も受け付けている。青少年本人と成人本人は年齢で区切っている。成人本人とは成人本人が悩んで相談しているということである。</p>	
	大池委員	<p>悩み相談ということか。</p>	
	事務局	<p>何でも相談ということである。 この事業が始まった当時、非行少年等が問題になっており、その非行による被害を受けた青少年の相談を受けてきた経緯がある。社会情勢が変化し、目に見える非行から心の中の悩みや様々な悩み相談が多くなっている。「被害」という言葉がついているが、今の社会情勢に合わせた青少年の心やその他の悩みの総合的な相談窓口として活動している。</p>	
	大池委員	<p>安全・安心ボランティア団体や安全・安心フレンドリー企業はどのような活動をしているのか。</p>	
	事務局	<p>夜間防犯パトロールや、子ども110番の家のような子どもが気軽に立ち寄れる企業、団体など、出来る範囲での地域の活動を行っているとのことである。</p>	
	意見交換等	田村会長	<p><意見交換について> さまざまな分野から出席している委員の方々が、青少年育成について日ごろ感じていることなどを含めてご意見をいただきたい。若者の話ということで、深谷委員、サポートステーションで感じていることはないですか。</p>
		深谷委員	<p>サポートステーションで言うと労働市場が上向いてくると就労が難しい層が滞留してしまう。就労実績を上げるという観点だけで業務を行っている苦しい状況がここ1、2年起こっている。自由に意見を言わせてもらうならば、ひきこもっている40歳以上の方々も含め、前提として、支援をすれば社会参加できる人は100%ではないということだ。追い込まれて、窮鼠猫を噛むような反応を示したり、自分を追い詰めたりしてしまう人も出てくると思う。こうなると、福祉との連携も必要になってくると思う。たいてい、支援は親切で行っている。善意で行っていることが何かをあおることに繋がりがねないと思う。支援する人への研修の内容に興味がある。 普通科高校でもキャリア教育を行っていく取り組みは素晴らしいと思う。名古屋でキャリア教育に関する仕事をしているが、先生方のキャリア教育への認識が低いと感じた。生きる力を育むというのがキャリア教育の帰結するところであると考え、小中学校段階でどんなキャリア教育が推進するかが課題だと思う。そこからこぼれた子達を支援するということになるが、岐阜県ではどのような取り組みがされているかが気になった。</p>

意見交換等	田村会長	岐阜県ではどのような取り組みをされているか、兒玉委員、どうですか。
	兒玉委員	県全体をお話しするのは難しいが、自校について話をすると、キャリア教育＝進路指導、高校選択ではないと思っている。子どもたちにいろいろな学びの中で、生きる力を育み、夢を描かせることが大事だと思っている。本校では校区や市内の方々10人ほどに職業講話をしてもらっている。旅行社の方や地元で起業した方、その企業に勤めている方などから、仕事の概要、必要な資格、仕事に対する気持ちなどをお聞きし、最終的には今、中学生の時に何をやる必要があるか学んでいる。1年生で職業講話を行い、これを踏まえ2年生で職場体験を実施している。これらで得た力や総合的学習などで学びを進め、自分の夢をより現実にしていくために何が必要かを学ぶ流れを作っている。これは自校だけではなくどの学校でも地域の実情に応じて行っている。
	田村会長	高校、特別支援学校の観点から錦見委員、いかがですか。
	錦見委員	キャリア教育は自己選択、自己決定の積み重ねの上にあると考えている。特別支援学校では、小さな積み重ねを経て就労、福祉就労など様々な選択肢を個々に合わせて行っている。高等学校では普通高校でも実業高校でも地域を意識して行っている。
	加藤委員	自分の中学生時代を思い返して考えると早い段階からキャリア教育を行うことにプラスになっているのか。いい取り組みだと思うが、選択肢が広がっているのか。それよりベースとなるものを積み上げる方が大切ではないか。子どもはどう思っているのか。
	兒玉委員	先ほどお話したことが積み上げるものの一つだと考える。いろいろな体験をさせることが青少年育成にとって大切なひとつだと思う。地域の方々の力をお借りし、企画していただいて、学校は一緒になって考えている。先ほどの職業講話や職場体験もキャリア教育のほんの一部でこれだけで全て身につくとは考えていない。いろいろな体験の中で何か礎になるものが身につけばいいと思っている。受験間近の中学生に将来の夢を聞くと語れず、「高校に入ってから考える」という生徒がいるが、自分の興味関心は何か、例えば工業高校に入って何をやりたいのか、それすらなく入学しても退学してしまうことにつながりかねない。青写真でもいいので考えさせることが今後につながると思う。いろいろな体験がその子を作っていくと思う。
	加藤委員	具体的にこれに向かっていくという訳ではなく、選択肢を広げる、自覚を持たせるということか。
	兒玉委員	はい。
	田村会長	キャリア教育は昔にはなかった概念で、他にもどんどん新しいことが学校に入ってきて先生方も大変だと思う。それぞれ頑張っていたかかないと青少年育成もうまくいかないと思う。他にはどうですか。
	森下委員	身につくかどうかは別にして、子どもにいろいろな体験をさせることが大切である。青山中学校で10年くらい前に始めた中学生からのハローワーク事業では、今では40以上の地域のいろいろな職種の方々の話を聞いてい

意見交換等

	<p>る。生徒は、話を聞いて、自分のやりたいことが見つかった時に生きる力が出てくると思う。施策も学校や地域を巻き込んだ取り組みをお願いしたい。</p> <p>一つ、お尋ねしたかったのは非行系の不登校の児童生徒について、何かあったときに以前は学校の先生が対応していたが、今はすぐに警察等に連絡し、学校では対応しなくなったと聞いたが本当か。</p>
兒玉委員	<p>地域によって差はあるが、学校は放置をしている訳ではなく、家庭の状況を考えてタイムリーに家庭訪問をしている。2人一組で出かけ、関わりを持っている。非行系の情報は少なくなっているが、外を徘徊する生徒もゼロではないので、その場合は保護者と連携を取らないといけないので必ず会える時間に家庭訪問を行い、関わっている。学校が動けない時間帯には市の少年支援の組織の職員が見に行き、学校に報告してもらおう仕組みになっている。同じような取り組みをどこの学校でもやっていると思う。</p>
森下委員	<p>協議会についてだが、今までいろいろな団体がばらばらに活動しているのが、情報共有できるようになり、いい取り組みだと思う。健全に育っている青少年の方が多いので、そちらについても支援する仕組みを考えてもらえると良い。</p>
田村会長	<p>話題が多岐に渡っているが、報道機関のお立場で、柏田委員ご意見はありますか。</p>
柏田委員	<p>青少年育成のため各団体が連携することは大切なことであり、組織が立ち上がったことについて評価する。このような連携の例は他自治体などにはあるのか。</p>
事務局	<p>私どもが知る限り、青少年健全育成計画の4分野全体で取り組んでいる都道府県の情報は無い。岐阜県を含め、困難を抱える子どもの支援については多角的な支援が必要で関係団体が連携している県はあるが、青少年健全育成分野の団体も入っている例は承知していない。</p>
柏田委員	<p>若者のコミュニティー、カルチャーは見えにくい、把握できにくい。大人は見逃しやすく、そこに問題の芽が隠れているかもしれない。見えにくい部分を吸い上げて若者のコミュニティー、カルチャーを把握していく仕掛けも必要ではないか。先ほどの説明の中で発達障害の専門家を招いた勉強会という話があったが、若者のコミュニティー、カルチャーについての当事者がいたら意見を聞くような取り組みがあるといいと思う。問題のある子どもに加え問題になりそうな子どもへのケアが必要ではないか。</p>
田村会長	<p>貴重な意見をありがとうございました。寺田委員はいかがですか。</p>
寺田委員	<p>キャリア教育についてお尋ねするが、キャリア教育のカリキュラムは指針に基づいて自校でつくり、他校との連携はとっているのか。</p>
兒玉委員	<p>各学校でキャリアに関わる年間計画を作っていると思う。各学校の共有は難しいかもしれないが、市の特別活動の部会などで各学校が作った計画を横並びで共有することは出来る。</p>
寺田委員	<p>横並びで見た結果、目的がずれていたりしないのか。</p>

意見交換等	<p data-bbox="331 181 440 208">兒玉委員</p> <p data-bbox="331 297 440 324">田村会長</p> <p data-bbox="331 414 440 441">杉山委員</p> <p data-bbox="331 754 440 781">事務局</p> <p data-bbox="331 916 440 943">田村会長</p> <p data-bbox="331 987 440 1014">岡田委員</p> <p data-bbox="331 1373 440 1400">深谷委員</p> <p data-bbox="331 1713 440 1740">田村会長</p> <p data-bbox="331 1910 440 1937">三輪委員</p>	<p data-bbox="518 181 1422 248">大きな指針は県で示しており、それに沿って各学校で特色ある計画を作っている。</p> <p data-bbox="518 297 1422 365">事件が起こると、インターネットの話題が出てくるが、業界の代表として杉山委員、何か意見はありますか。</p> <p data-bbox="518 414 1422 705">私は、岐阜県情報産業協会の副会長を務めていて、一部高校、大学などでコンピューター系の授業を行っている。青少年育成とIT、SNSなどに分野をつなぐなどお役に立てることがあれば岐阜県情報産業協会として協力できると思う。もう一点、協議会の加入団体について、過去に私がボランティアをしていた時、良かれと思ってやろうとする事が法律に引っかかるのではないかと心配したことがある。各団体はプロなので問題ないとは思いますが、法律、コンプライアンスの観点の委員を入れた方が安心して活動できると思う。</p> <p data-bbox="518 754 1422 866">協議会のメンバーについては、議論の進捗によって増えることはあり得る。法律の専門家については、メンバーに入れるかは内容次第だが、専門家を招いて話を聞くことはあり得る。</p> <p data-bbox="518 916 1422 943">青少年育成の現場からのご意見等ありませんか。岡田委員、いかがですか。</p> <p data-bbox="518 987 1422 1323">私は、今年度、ぎふ立志リーダー養成塾に参加した。参加した中学生が白川村の将来について真剣に考えてくれ、素晴らしい発表であった。リーダーを育てることはとてもいいことだと感じた。白川村は小さい村なのでいろいろな役が回ってくるが、担える人材が少ないと感じている。役をもらって責任を持って務めるというより、役を順番に次の人に回しているイメージが強い。子どもたちがリーダーとなって率先して白川村を担える人材に育ってくれるといいと思った。ぎふ立志リーダー養成塾は、リーダー経験がある子が応募できるとのことだが、リーダー経験者だけではなく、いろいろな子ども達が参加できるようになると良いと思う。</p> <p data-bbox="518 1373 1422 1664">ぎふ立志リーダー養成塾もそうだが、今を基点に過去を見ている。子ども達を育成するには将来を考えてもらわないと主体性は伸びてこないと思う。岐阜県は今後、何で生きていくのか見えにくいと思う。IT産業なのか、観光なのか、地域によって違うとは思いますが、大人がきちんとビジョンを持ち、そのためにこの力が必要だと示さないと子どもはいきいきとあれをやってみようという気にならないと思う。岐阜という地域の資源を活かすには、このようなルートやルールがあるなど示しながら将来を考えてもらう働きかけが必要だと感じる。</p> <p data-bbox="518 1713 1422 1870">日本の次世代リーダー養成塾では、トップレベルの講師が沢山いて、内容も充実していて深谷委員指摘の要素も入っていたように記憶しているが、ぎふ立志リーダー養成塾は県で主催しているので、委員指摘の要素も加味してカリキュラム等を工夫してもらおうと良いと思う。その他にはいかがですか。</p> <p data-bbox="518 1910 1422 2045">私は、唯一自治体の職員であるが、その立場で言わせてもらおうと、地域子ども支援賞はとてもありがたい賞である。表彰したいという話があっても、市の表彰規程等では漏れてしまう方は多く、地域子ども支援賞を大いに活用している。子どもの見守りボランティア活動など、地域の方々を表彰すると</p>
-------	---	--

意見交換等

でもありがたい賞である。今後とも是非続けてもらいたい。

関市では地域委員会を立ち上げ青少年育成も各地域で動いて行っており大変ありがたい。地域委員会で子どもたちを巻き込んで事業をしたいが規制があり、学校へ入っていけないという声を聞く。学校も子どもと地域との関わりを持ちたいと思っているのに問題になっていると思う。学校に入る所に壁があり、いい方法はないものかと思う。

田村会長

地域子ども支援賞について力強い支援をいただき、ありがたい。地域の人々が学校に入ることは大事であり、昔に比べ随分開放的になったと思う。学校評議員などの制度もあるし、働き方改革の影響もあり、地域の方々を入れて分担した方がうまくいくことも多く、全体的には学校も歓迎していると思う。私の地元でも地域の人々が学校に入り先生を助けているという話も聞く。いずれにしても、子どもの教育は学校だけでできるものではない。

磯谷委員、いかがですか。

磯谷委員

長年委員を務めているが、映画関係者と書店関係者は有害興行、有害図書の関係で肩身の狭い思いをする。規制はかかって当然であるが、映像文化の中から青少年が違う人生を仮想体験することは大事だと思う。以前は、学校で映画鑑賞の時間を設けてもらっていたが、今は皆無になってしまった。今は、一部アニメ映画を除いて、青少年に映画館に来てもらえなくなった。他の手段で映像を見ているか、ゲームに走っているのか、映像文化が若者に希薄になっていると感じる。映像から違う人生を見るのはとても簡単で、私も多く感銘を受けた。最近では、ボヘミアン・ラブソディという映画があり、主人公は特殊な人生を歩んだ男であり実際にあった話である。社会にしいたげられ、偏見と闘い成功を収めた物語で是非、青少年に見てもらい、こういう生き様があることを知ってもらいたい。映像文化、活字文化に触れてもらい映像文化、活字文化が重要な位置を占めるようになって欲しい。有害興行はほとんど青少年の目に触れることはなくなったが、ネット上で劣悪な映像が流れており、問題だと思う。いずれにしてもいい映像をもっと見てもらえるようになって欲しい。

田村会長

貴重な意見をありがとうございました。多田委員、いかがですか。

多田委員

当社は関市でマーゴを運営している。そういえば、ここ1、2年くらい青少年の大きな万引きや、非行が減っていると感じている。最近では、青少年より認知症の客のケアやストーカーから従業員を守る対策などに重点がいつている。最近感じるのは、わが子を大事にしすぎるあまり、従業員をどなりつけたり、客同士喧嘩したりする若い客が増えていることだ。従業員も疲弊しており、子どもの教育の前に親の教育も助けてもらえるとありがたい。

田村会長

また、違う観点からなるほどと思う意見でした。酒井委員、いかがですか。

酒井委員

社会とのつながりに関連するが、私の住んでいる地域は20～30歳代の家族が増えているが、自治会に入らない世帯が多く、資料にもあったように学校などの保護者のボランティアが減っていて寂しく感じる。以前はどこに誰が住んでいるか把握できたが、今はあいさつする程度でボランティア活動を通じたつながりがなくなっている。土曜日、日曜日仕事で参加できない人も多く、親についてきていた小学生がボランティア活動を体験できなくなっている。地域の文化祭でボランティアを募ると、中学生は協力してもいいと

意見交換等

言って来てくれる人も多いが、小学生には声を掛けるのもためらってしまう。保護者がもっとボランティア参加してもらえるとコミュニケーションがとれると思う。自治会長に聞くと、自治会入会を依頼しても拒否したり、入会しても班長などの役が回ってくると脱退してしまうという話である。プライベートも仕事も忙しく、難しい部分はあるが、近所との関係が希薄になっているのは残念である。

田村会長

ありがとうございました。玉腰委員、いかがですか。

玉腰委員

先ほど、磯谷委員より学校での映画鑑賞がなくなったとの話があったが、本校では本日、生徒会主催で映画鑑賞会を行う。これは毎年行っていて、楽しく面白いが、感動する場面もある作品を生徒会で選んでいるようだ。

先ほど深谷委員より、岐阜県のビジョンの話があったが、私立学校にとって切実な課題は岐阜県の人口の減少、特に若年層の減少である。生徒募集を一生懸命やるが、なかなか入学してもらえない状況である。愛知県に人口が流れないような、岐阜県に定住してもらえるようなビジョンを考えると良いと思う。

最近、幼い命、若い命が失われるニュースが相次いでいるが、大切な命が失われることがないように大切にしていかなければならないとひしひしと感じている。

田村委員

岐阜県の子どもたちが減っているのはその通りで、逆に岐阜県に転入してもらえるような魅力ある岐阜県づくりをお願いしたい。小学校の段階に他県に転出するともう帰ってこないと思う。まずは、岐阜県の中学校に進学してもらえるようにして欲しい。岐阜県の学校は頑張っているのだから、各方面からのご支援をお願いしたい。それでは、岩田委員、いかがですか。

岩田委員

保護司を代表して話をさせてもらおうと、保護司は事件を起こした対象者を更生するだけでなく犯罪予防活動、犯罪のない明るい社会づくりに力を入れている。犯罪件数は全国的には平成14年がピークで、現在は3分の1に減少し、治安がよくなっている。来年はオリンピックがあるので世界一治安のいい国を作ろうと政府、法務省から保護司等に協力要請もきている。特に岐阜県では、青少年の事件がピークの5分の1に減っているのがうれしい。青少年育成は大切なので、引き続き、委員の皆さんのご協力をお願いしたい。

田村会長

ありがとうございます。

貴重な提言、問題提起をしていただけたので事務局でまた検討できる場所があれば考えてほしい。